

試合は先にリズムを掴んだ福岡が第1クォーターから12点のリードを奪うと、その後も守備でボールを奪うステイールからの得点を量産するなど、終始リードを保ち27点差で快勝しました。ベンチスタートだった石谷選手は、第2クォーターと第4クォーターで途中出場。「途中出場でも集中力を切らさず守備をしっかりとし、打つべきところでシュートを決め」と小川忠晴ヘッドコーチがたたえたように、身長177cmの体を張った守備でチームに貢献し、自らも3Pシュートを決めて地元の声援に応えました。

「思い出深いこの場所でプレーできて幸せ。プロとして絶対に勝ちたかった」と語った石谷選手は小学6年の時、この会場で日本リーグの試合を観戦。そのとき石谷少年を驚かせたのが、松下電器に所属する身長175cmの川面剛選手(現福岡主将)が見せた豪快なダンクシュートでした。「自分みたいに小さな体でも、あんなプレーができる」と勇気もらいバスケット選手を志した少年は今、川面主将のチームメイトとして切磋琢磨しています。「あのときにあこがれた剛さんと同じチームで、しかもこの場所で行けたのは、今も現役でいてくれる剛さんのおかげ。本当に感謝しています。自分も人に夢や感動を与えるプレーでバスケットを盛り上げていきたい。そしていつかは、自分に続く後輩と一緒にできれば」と笑顔を見せた石谷選手。13年前にバスケット選手から勇気もらった少年が努力を重ねてたくましく成長し、子どもたちに夢を与えるプロとして輝きを放っています。



地域で小中学生にバスケットを指導している石谷敏行さんは、「地元のみなさんの声援に応えることができてよかった。ここは聡が子どものころに何度も試合した体育館。試合を見ながら昔を思い出しました。ケガに気をつけて、チームのためにしっかり働いて、プレーオフを目指してほしい」と息子の活躍に目を細めました。そして「試合を観戦した子どもたちには、どんな小さなプレーも一切妥協しない、プロのひたむきな姿から何かを感じてほしい」と未来の選手たちにメッセージを送りました。



熱い戦いに華を添えた「ライジング福岡チアーズ」の演技。



写真上○ベンチからチームを鼓舞する石谷選手。シュートが決まるとガッツポーズ。写真下○スタンドからはバスケット少年・少女がボードを手に、熱い声援を送りました。

写真右○勝利の後、ファンとタッチを交わす。石谷選手がもちろん一番人気でした。写真左○少年・少女たちに即席のサイン会で、最後の最後までファンサービス。

写真右○試合終了後、小川ヘッドコーチと石谷選手に花束を贈呈した方城中バスケットボール部男子主将渡辺宏くん(伊方)と女子主将榎友理奈さん(伊方)は「こんな華やかな舞台上で戦う先輩を誇りに思います」と目を輝かせていました。写真左○大学生時代の石谷選手から方城中でコーチを受けた東鷹高校松田美咲さん(伊方)は、コートキーパーとして試合をサポート。「すごい迫力でした。みんなより小さいのに、積極的に立ち向かっていく先輩の姿に感動しました」とプレーを間近に見た感想を語りました。



豪

快なダンクシュートにスピードあふれるドリブル、2mを超える外国人選手に果敢に挑むディフェンス…。プロの真剣勝負が繰り広げられるbjリーグ公式戦が田川で初開催され、石谷選手がそのコートに立ちました。伊方小3年生の時に父・敏行さんが監督を務める方城ミニバスケットボールクラブでバスケットを始め、方城中では県選抜チームで全国制覇。そして中村学園三陽高校をインターハイ初出場に導くと、福岡大学で2度の大けがを克服し九州インカレMVPに輝き、2008年ライジング福岡に入団した、田川地区のバスケット少年・少女があこがれるプレーヤーです。

男子プロバスケットボールのbjリーグが3月27日、田川市総合体育館で開かれました。西地区2位のライジング福岡が同6位の京都ハンナリーズと対戦した公式試合に、福智町伊方出身の石谷聡選手(25歳)が出場。地元ファンから大声援を受けた石谷選手は、少年時代に駆け回ったコートで気迫あふれるプレーを披露し、福岡の勝利に貢献しました。

夢を描いたコートでプレー。

プロバスケットボールプレーヤー
石谷聡選手が田川市で公式戦

